

## 複数回の経頭蓋的磁気刺激治療において段階的に失語症状が改善した 1 例

### —発話困難な状態から短文レベルでの発話獲得まで—

○伊藤実希（いとうみき）1)、山崎龍之介（OT）1)、桑垣祐子（ST）2)、鹿野純平（OT）1)、吉田誠（ST）1)、木村彩香（MD）1)、垣田清人（MD）1)

- 1) 医療法人社団行陵会京都大原記念病院
- 2) 医療法人社団行陵会京都近衛リハビリテーション病院

---

#### 【目的】

経頭蓋的磁気刺激治療（以下 rTMS 治療）と集中的言語聴覚療法の併用療法を短期入院で 4 回実施した結果、発話が困難な状態から短文レベルまで改善する症例を経験した。この症例の経過を振り返り、複数回実施による効果、また他の要因について検討した。【方法】4 回各々の rTMS 治療前後の ST 評価結果、リハビリテーション記録や生活等の情報を後方視的に分析した。本研究にあたって、本人・家族からの同意を得て、データは個人が特定されない様に細心の注意を払って取り扱い、当院の倫理委員会の承認（R01-003）を得た。

#### 【症例】

70 歳代男性。X 年 9 月に心原性脳梗塞発症、左大脳半球広範囲を病巣とした重度運動性失語が出現した。

#### 【結果】

rTMS 治療 1 回目（X+2 年）は自発話のみられるも、聴取困難なレベル。2 回目（X+3 年）は聴取困難なことが多いも時折単語レベルの発話のみられた。3 回目（X+4 年）は単語レベルが主だが、2 文節レベルの発話のみられ始めた。4 回目（X+5 年）は 2 ～ 3 文節レベルの発話が可能となった。1 回目治療後～ 2 回目治療前では、失語症状の改善を認めた。

#### 【考察】

中川ら（2012）によると広範病巣例では、40 歳以上の高年齢発症になると、2 ～ 3 年程度の期間で機能回復に制限が現れる可能性があるとして述べている。rTMS 治療を複数回行うと広範囲病巣であっても機能改善する可能性がある。また、在宅生活において能力を落とさないような働きかけがあると、改善しやすい可能性がある。